


## 第 1 章



### 復旧・復興トピックス

平成 28 年度における国・県・土木部の  
主な出来事について時系列で記載し  
ています。

## 国・宮城県・土木部の6年目の歩み

平成28年4月

### 国・宮城県全体のトピックス

#### 1日：任期付職員と新規採用職員の辞令交付式

復旧・復興業務に携わる任期付職員の辞令交付式が、県庁1階みやぎ広報室にて行われました。任期付職員は、復興事業で職員不足が顕著になっている土木や建築、用地補償事務などの業務を県の機関や被災市町で行うこととなっています。また、同日、新規採用職員の辞令交付式も県庁2階講堂で行われました。

#### 6日：商用ステーション整備に関する協定の締結

東北初となる商用水素ステーションの整備を進めるため、宮城県庁で協定締結式を行い、商用水素ステーションが仙台市に整備されることにより、県内の燃料電池自動車（FCV）の普及に向けた環境が整うだけでなく、日本中が水素ネットワークで結ばれ、水素エネルギーの利活用への関心が一層高まるきっかけになることが期待されます。



#### 16日：三陸沿岸道路「三滝堂IC」が開通

国土交通省が整備を進めてきた三陸沿岸道路「登米志津川道路」のうち、「登米東和IC～三滝道IC」までの約2.0km区間が開通し、東日本大震災後、宮城県内において初の三陸道の延伸となりました。



#### 23日：塩竈市港町地区津波避難デッキが完成

塩竈市では、年間120万人もの観光客が訪れるマリゲート塩竈周辺地区の防災機能を向上させる津波避難デッキが完成しました。



#### 28日：岩沼市仮設住宅閉所式

岩沼市では里の杜地区に応急仮設住宅384戸を整備しましたが、平成28年4月に全世帯の移転が完了しました。

### 土木部のトピックス

#### 1日：辞令伝達式を開催

土木部には新規採用職員40名、自治法派遣職員104名及び任期付職員11名が配属となり、遠藤土木部長による辞令伝達が行われました。



#### 14日～15日：自治法派遣職員研修を開催

自治法派遣職員を対象として、宮城県の被災状況、復興状況等の現状や工事積算・監督・検査など宮城県での実務に関する研修を開催しました。

#### 14・16日：「平成28年熊本地震」が発生

14日午後9時26分頃、熊本県熊本地方を震源とするM6.5の地震が発生、続いて16日午前1時25分頃、M7.3の地震が発生しました。

宮城県では国土交通省からの派遣要請に基づき、被災建築物の応急危険度判定を行う建築職員20名を派遣しました。



#### 24日：国道346号「本吉バイパス」が開通

平成20年度から整備を進めてきました国道346号「本吉バイパス」が供用を開始しました。「本吉バイパス」は、旧本吉町中心部の道路の幅員狭小、歩道未整備、線形不良を解消するとともに、東日本大震災以降には、防災道路ネットワークを構築する上でも重要性が高い事業として、復興予算を活用して加速的に整備したものです。「本吉バイパス」の供用により、安全かつ円滑な交通が確保されるとともに、気仙沼・本吉地域における産業経済の活性化や観光振興、沿岸部と内陸部を結ぶ防災道路としての役割などが期待されます。



## 国・宮城県全体のトピックス

## 19日：G7仙台歓迎レセプション

先進7カ国（G7）財務相・中央銀行総裁会議に先立ち、歓迎レセプションが仙台国際センターで開催されました。会場には、復興支援への感謝を伝えるとともに、東日本大震災からの復興に向けた情報発信や風評被害の払拭、外国人観光客の誘客、投資環境の紹介等を目的としたブースが設置され、参加者はこれらの説明に熱心に耳を傾けていました。

歓迎レセプション開会前には、震災からの復興を国内外に発信することを目的とした、高木復興大臣と3県各知事による合同記者会見も行われました。



## 28日：「さくらの森植樹祭」

南三陸町志津川東団地は震災後の新たなまちづくりのモデル地区として位置付けられており、住民参加型の植樹イベントを開催することにより新しいまちの風景づくりの一助とするため「さくらの森植樹祭」行いました。



## 28・30日：あおい地区災害公営住宅引き渡し

野蒜地域は、丘陵地を造成し居住地等の集約化と安全性の確保、住環境に優れた市街地の形成を目指し整備してきました。28日はJR仙石線周辺の87区画の一戸建て用地の引き渡しを行いました。

また、30日には市内最大規模である「あおい地区」の災害公営住宅の引き渡し式が行われ、138棟147戸が入居可能となりました。



## 土木部のトピックス

## 11～13日：新任職員研修

平成28年度に採用された新任職員を対象として、土木部の概要や共通仕様書、建設業法令等の実務的内容の研修、実際の復興事業の現場見学等を実施しました。



## 13日：海岸保全基本計画（三陸南沿岸）改定

改定にあたり、平成26年6月11日に改正された海岸法に基づき、海岸保全施設の維持管理に関する事項を記載した計画に変更しました。なお、仙台湾沿岸海岸保全基本計画については、平成28年3月に変更しました。

## 14日：津波防災シンポジウムを開催

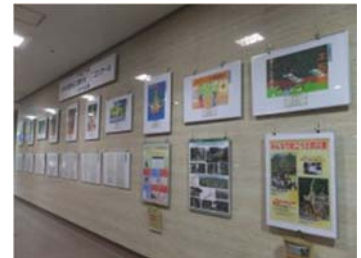
東松島市コミュニティセンターにおいて、「津波防災シンポジウム 語り部が考える“伝承”の在り方～東日本大震災から5年、今、これから、何を語るか～」を開催し、約160名の参加者と伝承の在り方について理解を深めました。



## 31日：平成27年度土砂災害防止に関する

## 絵画・作文コンクール入賞作品パネル展

土砂災害及びその防止についての理解と関心を深めてもらうため、次代を担う小・中学生を対象に開催したコンクールの県審査入賞作品17点を展示しました。



## 国・宮城県全体のトピックス

## 1日：南三陸町地方卸売市場を再建

南三陸町地方卸売市場は、昭和24年に旧志津川漁業協同組合が開設し、平成8年からは旧志津川町が供用していましたが、東日本大震災により壊滅的な被害を受けたことから再建され、このたび落成式と初競りが行われました。



## 4日：石巻市復興まちづくり情報交流館

## “雄勝館”がオープン

雄勝地区を中心とした復興事業の進捗状況やまちづくりに関する地域情報、地域のなりわい、いとなみ等をパネルや映像により発信する施設です。



## 13日：広域防災拠点整備に伴うJR貨物との

## 基本合意書の締結

東日本大震災の教訓から、今後起こりうる大規模災害に効果的に対応するため「傷病者の域外搬送拠点の充実強化」、「広域支援部隊の集結場所やベースキャンプ用地の確保」、「物資輸送中継拠点の整備」などが必要であるとの認識のもと、広域防災拠点の整備に向け、これまでJR貨物と協議を重ねてきましたが、この度、本県の進める広域防災拠点の整備に協力するため、仙台貨物ターミナル駅を移転するとともに敷地を売却することで、JR貨物と基本合意しました。



## 20日：宮城県復興フォーラム開催

東日本大震災から5年経過したことを踏まえ、復興庁では平成28年6月を「東北復興月間」と定めています。これを受け、県では震災からの5年間を振り返るとともに、防災・減災の取り組み、震災の記憶の風化防止や復興への展望など、みやぎの未来を語る復興フォーラムを仙台市で開催しました。



## 土木部のトピックス

## 4日：(主)岩沼蔵王線 大師・姥ヶ懐工区トンネル工事着工

主要地方道岩沼蔵王線は、岩沼市を起点とし、村田町を経て、蔵王町に至る幹線道路であり、東北縦貫自動車道と仙台東部道路のアクセス道路であるとともに、仙台空港と内陸部を結ぶ東西軸として位置づけられている重要な路線です。東日本大震災時には、復旧車両等の通行に支障を来したことから、災害時にも有効に機能する「防災道路ネットワーク」の構築のため、事業を進めているものです。



## 7日：土砂災害防止に関する講習会を開催

市町村職員を対象に、土砂災害防止に関する知識を深め、警戒避難体制の整備を促進するため、講習会を開催しました。今年度からパソコンを用いたハザードマップ作成支援システムの実技講習や、市町村間の意見交換会も実施しました。

## 10日：土木部防災訓練を実施

今後起こり得る大規模地震・津波等に対する防災体制の確立と防災意識の高揚を図るため、「みやぎ県民防災の日」に合わせて土木部防災訓練を実施しました。同時に土木部BCPの確認も行いました。



## 13日：国道398号新北上大橋が開通

東日本大震災の津波により、北上川左岸側の2径間(L=155m)が流出するなどの甚大な被害を受け、災害復旧事業により復旧工事を進めてきた新北上大橋が開通しました。



## 28日：女川湾口防波堤災害復旧事業が全建賞受賞

復旧にあたって水理模型実験等により復旧断面の検証を行い、経済性を考慮した工法（捨石マウンドに被覆ブロック15t型を水深-25mまで部分連結構造とし、ケーソン堤は、根固めブロック2段積み構造とした）を取り入れたほか、開口部潜堤の天端高を変更することで、防潮堤計画高を抑え、女川町の復興まちづくりに寄与した点が高く評価され、表彰されることとなりました。



## 国・宮城県全体のトピックス

## 1日：仙台空港民営化開始

全国初となる空港民営化を記念し、仙台空港で式典が行われました。歓迎レセプションでは、東北の政財界約 400 名の方が参加し、民営化の祝賀ムードに包まれました。今後、空港民営化によって、民間ノウハウを生かした、一体的な空港運営が実現され、LCC 等の就航による航空路線の拡充や、空港利用者の増加といった好循環が生まれることで、宮城のみならず、東北全体の交流人口の増加が期待されています。



## 20日：第1回宮城県・仙台市調整会議

地方自治法の一部が改正され、指定都市及び当該指定都市を包括する都道府県による指定都市都道府県調整会議が設置されました。会議には村井知事と奥山市長とともに、中山県議会議長、岡部市議会議長が出席し、県と市が連携すべき事業等について、それぞれの立場から活発な意見交換が行われ、今後とも協力していくことで一致しました。

## 28日：大規模災害時における被災箇所の

## 復旧に係る助言に関する協定締結

日本技術士会は、技術士制度の普及、啓発を図ることを目的とした日本で唯一の技術士による公益社団法人です。また、自治体との協定締結は、北海道・東北地区では今回が初めてとなります。この協定締結により、県や市町村の被災箇所の復旧において、技術士の方々から効率的な災害復旧方法の助言を頂くことで、被害の拡大防止と被害施設の早期復旧が期待されています。



## 29日：菖蒲田海水浴場プレオープン

東日本大震災以後、休止していた菖蒲田海水浴場について、海岸堤防の復旧が進み、来年度の本格オープンを前にプレオープンしました。



## 土木部のトピックス

## 9・10日：住まいの耐震博覧会すまい元気フェア

夢メッセみやぎで行われた、民間会社主催の住まいに関する情報を発信するイベントに宮城県職員を派遣し、二重ローン補助などの住宅再建支援制度や各種住宅施策、耐震診断及び耐震改修工事の助成等についての相談に対応しました。



## 13日：宮城県建設工事表彰式・事故防止対策推進大会を開催

宮城県建設工事表彰式は、県が発注した工事のうち優良な工事を施工した施工業者及び安全管理に対する取組が優良であった現場代理人を表彰するもので、平成 28 年度は 98 社 113 名が受賞されました。



## 13日：北部土木事務所が鳴瀬小学校で出前講座

児童の皆さんと水生生物の採取や観察を行い、鳴瀬川に生息する生物の特徴について調査しました。また、水難事故から身を守るため、川で遊ぶときの注意事項について説明しました。



## 13日：大曲小学校総合学習に参加

子供たちが楽しみながら河川の素晴らしさと自然環境を守る大切さを学習するため、「NPO 法人ひたかみの里」が二級河川定川で東松島市立大曲小学校の 4 年生 38 名を対象にした総合学習に参加しました。子供たちは、カヌー体験を始め、定川の歴史や災害復旧の概要などについて学習しました。NPO の講師が定川に生息する生き物を事前に採取し、間近で生態を学びました。また定川の水質について子供たち一人一人が水質試験を行い、定川の現状を確認しました。



## 15日：復興まちづくりパネル展開催

平成 28 年 7 月 15 日～8 月 18 日まで、塩竈市マリゲート塩釜店舗スペースにおいてパネル展を開催しました。



## 国・宮城県全体のトピックス

6日：仙石東北ライン一部列車の女川駅直通運転開始

## 8日：今村復興大臣と意見交換

今村復興大臣及び橋復興副大臣が県庁を訪れ、村井知事と復興状況等について意見交換を行いました。意見交換に当たり村井知事は東日本大震災からの創造的復興に向け、「職員不足の問題」、「訪日外国人を含めた観光客の誘致」、「広域防災拠点の整備推進」、「放射光施設の誘致」の4点について説明し、要望書を手渡しました。



## 21日：第15回港湾感謝祭



第15回港湾感謝祭が開催され、国立研究開発法人海洋研究開発機構の地球深部探査船「ちきゅう」が寄港しました。

## 31日：建設業担い手セミナー

建設産業は、社会資本の整備をはじめ、災害時の対応やインフラの維持管理を担うとともに、地域の経済や雇用を支えるなど重要な役割を果たしています。しかし、宮城県の建設産業を取り巻く環境は、東日本大震災からの復旧・復興事業終了後には建設投資額の大幅な減少が見込まれるとともに、高齢化や生産年齢人口の減少に伴う担い手不足などの多くの課題を抱えています。宮城県は、安全・安心な県民生活を支えていく上で、欠かすことのできない建設産業の経営の維持発展に向けて「建設業担い手確保セミナー」を開催しました。



## 土木部のトピックス

10日：国道398号「戸倉・波伝谷復興道路」が開通  
「戸倉復興道路」及び「波伝谷復興道路」は、東日本大震災で甚大な被害を受けた南三陸町戸倉地区における防災集団移転団地と南三陸町中心市街地である志津川地区を連絡する道路として整備したものであり、南三陸町内では初の復興道路の開通となりました。



## 19日：2016夏休み！小学生と保護者の現場見学会

『新・みやぎ建設業振興プラン』で基本目標の1つに掲げた「担い手を“育てる”」の取組として小学生と保護者の方に参加いただきました。



## 30日：台風10号が東北地方太平洋側へ上陸

台風第10号は、温帯低気圧の性質を帯びつつ、関東の東海上を北上し、次第に加速しながら北北西に進路を変えて、強い勢力を保ったまま暴風域を伴い東北地方に接近し、30日18時頃、1951年（昭和26年）の統計開始以降、初めて東北地方太平洋側（岩手県大船渡市付近）に台風が上陸しました。

30日：被災建築物応急危険度判定  
全国連絡訓練の実施

都心南部地下地震を想定した全国連絡訓練が実施されました。

## 国・宮城県全体のトピックス

## 9日：みやぎ洋上風力発電等導入研究会

洋上風力発電の導入に向けた可能性を研究するため、海域利用者、大学、行政による研究会を設置しました



## 12日：人財育成フォーラム

若手職員の人材育成への意識向上を目的とした「若手職員のための人財育成フォーラム」が、県庁1階みやぎ広報室で開催されました。本フォーラムは、職員が自らのキャリア形成や仕事の仕方などについて考え、その成長に向けた積極的な取組を行うことを狙いとしています。参加した約100名の職員は熱心に耳を傾けました。



## 16日：気仙沼向洋高校改築工事着工



震災で被災した気仙沼向洋高校の建替工事が、市内長磯牧通地区で始まりました。

## 17日：ツール・ド・東北2016

「ツール・ド・東北」は東日本大震災の復興支援及び震災の記憶を未来に残していくことを目的とした自転車イベントであり、第4回となる今大会は、牡鹿半島を舞台としたグループライドが新設され、2日間で全国から約3,700人のライダーが参加しました。2日目はあいにくの雨模様でしたが、ライダーたちは沿道からの温かい声援を受けながらペダルを漕ぎ続け、エイドステーションでは三陸の海の幸を堪能するとともに、地元の方々との交流を楽しみました。



## 31日：熊本県知事が表敬訪問

蒲島郁夫熊本県知事が村井知事を表敬訪問し、4月に発生した熊本地震からの復興状況や、その支援に対する感謝を伝えました。



## 土木部のトピックス

## 10日：阿武隈イベント下水道ふれあいフェア開催

9月10日の「下水道の日」に合わせ、各浄化センターにおいて指定管理者と共催で下水道ふれあいイベントを開催しました。



## 15日：宮城県土木部優良建設関連業務・MVP表彰式

宮城県土木部発注の建設関連業務において、業務成績が特に優れた受注者及び管理技術者を対象に表彰式を行いました。



## 6日：矢本海浜緑地の工事安全祈願祭

東日本大震災の被害により、新しい場所に再建する「県立都市公園矢本海浜緑地」の工事安全祈願祭を開催しました。被災前の矢本海浜緑地は、広場や豊富な遊具があり年間15万人が訪れる人気スポットでしたが、東日本大震災に伴う大津波により壊滅的な被害を受けました。

新たに再建する公園は、平時は大人から子どもまで楽しめる広場などを整備し、災害時には利用者などの緊急的な避難先となる防災機能をあわせ持った公園となる予定です。



## 25日：迫川フェスティバル'16

第27回長沼レガッタ会場において、長沼ダムのネーミングライツを取得しているパシフィックコンサルタンツ(株)と協働でクイズやペーパークラフトによるダム模型づくりを実施し、子供たちや親御さんに長沼ダムへの関心を深めていただきました。



## 国・宮城県全体のトピックス

1日：東松島市「震災復興伝承館」がオープン

9日：「空の日 仙台空港祭 2016」開催

仙台空港にて開催された仙台空港祭において、定期路線が就航する各都市の観光情報を発信し、仙台空港からの空の旅をPRしました。



10日：富谷町が「富谷市」へ 市制移行

23日：山元町まちびらき



東日本大震災により大きな被害を受けた山元町において、沿岸部の被災者が移転する「つばめの杜」「新坂元駅周辺」の両地区の「新市街地まちびらき」が開催されました。

つばめの杜地区の式典は、来賓に橋復興副大臣や山田宮城県副知事、国会議員、宮城県議会議員、山元町へ職員派遣を行った派遣元自治体の首長、町関係者など約200人を迎え、関係者一同によるテープカットやくす玉割りが行われ、復興の節目を祝いました。

28日：広域防災拠点整備事業地質調査に着手



宮城県広域防災拠点整備事業の整備用地である仙台貨物ターミナル駅（仙台市宮城野原地区）において、地質調査に着手しました。

28日：宮城県ドクターヘリ就航式

ドクターヘリの運航開始に先立ち、「宮城県ドクターヘリ就航式」が、仙台医療センタードクターヘリ格納庫において開催されました。医師・看護師、各消防本部や搬送先の医療機関の関係者など、およそ100名の方々が式典に出席し、フライトデモンストレーションが行われました。ドクターヘリは、救急患者に対して早期に治療を開始することにより、救命率の向上や後遺症の軽減などの大きな効果が期待されています。



## 土木部のトピックス

1日：石巻浄化センター「流域下水道まつり」開催

石巻浄化センターを会場に第7回流域下水道まつりが開催され、2000名を超える方々にお越し頂きました。汚水処理施設の見学や下水道に関するクイズ、津波により被災した石巻東部浄化センターの復旧状況等の展示を通して、下水道事業周知に努めました。



15日：北上運河災害復旧工事が完成

東松島市を流れる北上運河において、県内の河川災害復旧工事では第1号となる竣工式を開催しました。当日は、宮城県石巻高等学校吹奏楽部の皆さんによる演奏や記念銘板除幕、地元の皆様による鳴瀬鼓心太鼓の披露などを行いました。



19～21日：第1次災害査定

31日～11月2日：第2次災害査定

8月から9月にかけての連続した台風及び豪雨により被害が発生した公共土木施設について災害査定を実施しました。県管理分については、7件、約1億8千円の査定決定となりました。



24日：国道398号（仮称）相川トンネル貫通

十三浜字猪の沢から浪田地内までの延長約119kmを計画区間とし、平成24年から相川復興道路事業として整備を進めてきた当事業において、（仮称）相川トンネルが貫通しました。





## 国・宮城県全体のトピックス

**14日：仙台空港－会津若松・福島線高速バス運行**  
仙台空港に乗り入れる定期高速バスとして、民営化後第一号となる仙台空港－福島・会津若松間での高速バスの運行が開始されました。

**19日：国道347号通年通行化**

宮城・山形両県が連携して整備を進めてきた当事業が完成し、平成28年度より通年通行が可能となりました。通年通行化により、東西の連携軸や宮城県と山形県の交流人口拡大などが期待されるとともに、広域的災害時の援助物資等の物流・避難における代替路線としての機能が期待されます。

**20日：ひがしまつしま福幸まつり**

防災集団移転団地「野蒜ヶ丘団地」の公共施設の完成や宅地引き渡しの完了を祝し、「ひがしまつしま福幸まつり」が開催されました。本団地は、平成24年11月に着工し、91.5haの山林から大量の土砂を運び出すために巨大ベルトコンベヤを設置し、造成工事の期間短縮を図りました。

**26日：栗駒山系直轄砂防事業完成式**

平成20年6月14日に発生した「岩手・宮城内陸地震」に伴う土砂災害に対し、岩手・宮城両県知事からの要請により、国（直轄）による土砂災害対策が進められ、このたび両県内のすべての土砂災害対策工事が完了となりました。これを記念し、完成式が執り行われました。

**26日：サン・ファン・パウティスタ検討委員会**

現在、宮城県慶長使節船ミュージアムに展示されている「慶長使節船復元船サン・ファン・パウティスタ」は、慶長遣欧使節の偉業を後世に伝えることを目的に、1993年に建造されました。しかし、経年による船体の腐朽が進行していることから、今後のあり方を検討するため、公益財団法人慶長遣欧使節船協会が検討委員会を設置し、その協議内容をまとめた提言書が県に提出されました。

## 土木部のトピックス

**1日：災害査定臨場研修を実施**

実際の災害査定状況に触れることで災害対応力及び技術力向上を図ることを目的として、県及び市町村等の災害実務担当者を対象に第2次査定の現場にて臨場研修を実施しました。

**14～16日：公共土木施設災害復旧事業研修会**

公共土木施設災害復旧事業の災害査定実務を行えるよう、現地調査から朱入れまでの一連の流れを実践する研修会を2泊3日で開催しました。模擬査定の講師には災害復旧技術専門家を招き、本番さながらの状況で演習を行いました。

**16日～18日：みやぎの復興まちづくりパネル展を東京都内で開催**

昨年度に引き続き、東京都庁第1本庁舎南展望室においてパネル点を開催したほか、平成28年11月5日～6日に東京都江東区青海において開催された「みやぎフェスタ@MEGAWEB」に出展しました。国内外問わず多くの方にご来場いただき、宮城県の現在の姿を知ってもらいきっかけとなりました。

**23日：「住宅再建まるごと相談会」開催**

石巻市で行われた、宮城県や東北財務局などが主催する相談会に職員を派遣し、県の住宅再建支援制度や各種住宅施策等についての相談に対応しました。



## 国・宮城県全体のトピックス

## 1日：石巻市夜間救急センターオープン

震災前、南浜地区にあった石巻市夜間急患センターが再建されました。

## 10日：JR常磐線運転再開

東日本大震災による被害で運行休止区間となっていた、「相馬駅（福島県）-浜吉田駅（亶理町）」間の運行が約5年9ヶ月ぶりに再開されました。同日、山下駅（山元町）では運転再開記念式典が開催され、宮城県からは村井知事が出席し祝辞を述べました。再開区間は約23.2kmで、津波で甚大な被害を受けた駒ヶ嶺駅（福島県）-浜吉田駅の線路と、同区間内の新地（福島県）、坂元（山元町）、山下（山元町）の3駅が内陸側に移設されました。



## 17日：第7回復興加速化会議開催

国土交通省、復興庁、被災三県、建設業界団体等が出席し、東日本大震災の復旧・復興事業の施工確保対策等について意見交換を行いました。



## 23日～：女川「ハマテラス」オープン

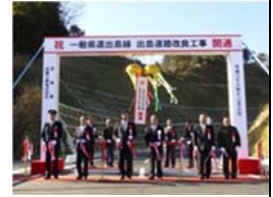
テナント型商業施設シーパルピア女川、女川町まちなか交流館などがオープンした女川駅前商業エリア開業から一周年。女川駅から海までまっすぐに伸びるレンガみち沿いに、物販飲食施設である地元市場「ハマテラス」（事業主体：女川みらい創造（株））がグランドオープンしました。「ハマテラス」は、町の基幹産業である水産業の販売拠点や賑わいをもたらす観光集客拠点としての機能をふんだんに盛り込みました。建物は周辺環境との調和を追求した木造平屋とし、海を望むテラスでは、ゆっくりと心地良い時間を過ごすことができます。



## 土木部のトピックス

## 3日：（一）出島線出島工区が開通

当事業は昭和63年度に道路改良事業に着手し、平成16年4月には一部区間が開通しました。今回の開通により、本事業の全区間が完成となりました。



## 14日：多賀城市災害公営住宅が全戸完成

多賀城市は市内4地区に合計532戸の災害公営住宅の整備を進めてきましたが、平成28年12月に宮内住宅（50戸）が完成したことにより、すべての災害公営住宅が完成しました。

## 17日：（主）塩釜亶理線早股寺島工区が供用開始

宮城県が岩沼市と連携して平成24年度から整備を進めてきた、主要地方道塩釜亶理線早股寺島復興道路（L=0.8km）が供用開始となりました。

早股寺島復興道路は、岩沼市復興整備計画にて新設する「第三次防衛ライン」市道相野釜蒲崎線へ連絡する避難ルートの一部となっています。



## 20日：宮城県蔵王噴火対策砂防計画検討会を開催

蔵王山火山緊急減災砂防計画を踏まえ、県内の公共土木施設管理者が連携し、火山噴火への対策となる行動計画を策定する検討会を実施しました。

## 31日：コンテナ貨物取扱量過去最高

平成28年の貨物取扱量が過去最高となる4711万トン（速報値）となりました。平成28年のコンテナ貨物取扱量が過去最高値を更新する24万6千TEU（速報値）となりました。



国・宮城県全体のトピックス

11日：宮城将来ビジョン改定に係る答申

県政運営の基本的な指針である「宮城の将来ビジョン」の改定について、宮城県総合計画審議会堀切川一男会長（東北大学大学院工学研究科教授）から村井知事に答申がありました。現在、県では、東日本大震災からの復興を最優先課題として、「宮城の将来ビジョン」と「宮城県震災復興計画」の2つの計画に基づき県政運営を推進していることから、平成28年度に終期を迎える「宮城の将来ビジョン」について、計画期間を「宮城県震災復興計画」の終期である平成32年度まで4年間延長し、併せて必要な見直しを行うことにしています。堀切川会長は審議の概要を説明し、答申の内容を尊重して宮城の将来像の実現を図るよう要望しました。

13日：「宮城県漁協直送 宮城牡蠣の家 大漁や」オープニングセレモニー

宮城県漁業協同組合では、首都圏において宮城県産の殻付きカキをはじめとした県産水産物の消費拡大を目指すため、一昨年、昨年に引き続き、東京オフィス街の中心地である大手町に期間限定の「宮城県漁協直送 宮城牡蠣の家 大漁や」を開設しました。



県も他の協力団体と一体となって、この取組を支援していくとともに、首都圏において県産カキのプロモーションを積極的に展開していくこととしています。

25日：仙台空港－松島・平泉・奥松島間 直行バス運行開始

30日：仙台国際貿易港首都圏セミナーの開催

仙台塩釜港の近郊には、自動車関連産業が集積しているほか、交通ネットワークの充実やモーダルシフトの進展等もあり、今後、さらなる発展が期待されています。このような状況を踏まえ、仙台塩釜港のさらなる飛躍を目指し、今年度もセミナーが開催されました。セミナーでは、宮城県による仙台塩釜港の紹介や仙台塩釜港を利用している荷主企業等による講演が行われました。



土木部のトピックス

12日：防災対応力研修

全国各地で突発的・局所的に発生している自然災害への対応力を高めることを目的として、土木研究所および広島県砂防課の職員から「大規模土砂災害」に着目した講演をいただき、災害発生時の初動対応等を学びました。



23日：松島自然の家 竣工

昭和45年野蒜地区に開所した施設が、震災により被害を受けたことから、宮戸地区に移転改築したもの。今回は本館に先立ち、野外活動フィールド部を改築工事にて整備しました。管理棟・野外研修棟2棟・コテージ棟・トイレ棟2棟の計6棟からなり、自然にふれあう野外活動の学習の場を提供します。



16日～31日：みやぎの復興まちづくりパネル展を道の駅で開催

大崎市岩出山のあ・ら・伊達な道の駅でパネル展を開催しました。



31日：（一）清水浜志津川港線「志津川復興道路」開通

南三陸町志津川地区で実施している被災市街地復興土地地区画整理事業と一体的に整備を進めてきた、一般県道清水浜志津川港線「志津川復興道路」が、供用開始しました。本路線は、南三陸町の中心市街地である志津川地区と町内の防災集団移転地とを接続するとともに、志津川地区において中心的な機能を持つ重要な幹線道路です。



## 国・宮城県全体のトピックス

## 7日：宮城県防災会議

宮城県地域防災計画の修正見直し等について審議するため、本会議が開催されました。県では、災害対策基本法に基づき、「宮城県防災会議」を設置し、宮城県地域防災計画の作成や修正見直しや防災対策の推進、災害が発生した場合の情報収集などを行っています。

## 10日：観光王国みやぎおもてなし大賞

観光の振興や地域経済の活性化に貢献された個人、団体等に贈られる「観光王国みやぎおもてなし大賞」の表彰式を県庁で行いました。この表彰は、「観光王国みやぎ」の実現に向け、観光事業者の意識啓発や意欲向上を図るとともに、県全体の「おもてなし」の充実につなげていくことを目的に、平成26年度から実施しています。今回は応募があった9件のうち、大賞1件、奨励賞4件、選考委員特別賞2件が表彰されました。



## 16日：要配慮者利用施設説明会

平成28年8月に発生した台風10号に伴う大雨により、岩手県の小本川が氾濫し、岩泉町の認知症高齢者グループホームにおいて多数の利用者が亡くなるという被害が発生しました。

これを受け、宮城県では、河川の浸水のおそれのある区域及び土砂災害のおそれのある区域に立地する要配慮者利用施設（社会福祉施設、病院、保育園等）の施設管理者を対象として、防災情報等に関する説明会を開催しています。

## 24日：南三陸町旧防災対策庁舎保存工事完成



南三陸町旧防災対策庁舎の保存工事が完成しました。

## 土木部のトピックス

## 1日：「H@!FM」みやぎ県北高速幹線道路事業PR

H@!FMは、登米市民8万人を対象とした地域コミュニティエフエムで、パーソナリティー佐藤アナとの掛け合いにより、事業目的や事業効果、現在の工事内容、開通予定などについて3日間にわたり放送されました。



## 3日：住宅・社会資本再生復興フォーラム開催

本フォーラムは、本県における震災復興の取組を広く発信するとともに、その取組を宮城のさらなる発展に繋げ、伝承していくことを目的として、震災後から毎年開催しています。今回のフォーラムでは、東日本大震災からまもなく6年を迎える今、被災3県における現在の復旧・復興状況の報告とともに、集中復興期間の検証を踏まえ、今後取り組むべきことや、震災記憶の風化防止とともに大災害に備えた震災教訓の伝承のあり方について考えるため、コメンテーターに宮城学院女子大学学長の平川新様、コーディネーターにエフエム仙台防災・減災プロデューサーの板橋恵子様をお迎えし、パネルディスカッションを開催しました。



## 28日：登米沢地区海岸災害復旧工事が完成



気仙沼市登米沢地区海岸の防潮堤工事が完了しました。3月18日には地権者の方々と見学会を開催しました。

## 国・宮城県全体のトピックス

## 3日：南三陸町さんさん商店街

「南三陸町さんさん商店街」は、平成24年2月から平成28年12月までのおよそ4年間仮設店舗での営業を行っていましたが、3日に本設店舗として新たにオープンしました。オープンした商店街には28の店舗が営業を開始しています。魅力ある新商店街ができたことで、地元住民の買い物の場として、また、観光の拠点として、南三陸町のにぎわいの創出が期待されています。



## 11日：東日本大震災から6年（みやぎ鎮魂の日）

## 14日：むすび丸誕生10年記念式典

## 15日：第十六代佐野藤右衛門氏へ感謝状を贈呈

県が実施している「貞山運河再生・復興ビジョン」の主要施策である「貞山運河への桜植樹」および「はなはなプロジェクト」が実施している「浪分桜」の植樹活動において、桜の寄贈や技術指導により、本県の復興にご支援いただいている第十六代佐野藤右衛門氏に対し、知事が感謝状を贈呈しました。

## 18日：仙台空港アクセス線開業10周年

## 20日：南三陸海岸ICが開通

志津川IC～南三陸海岸ICの約3.0km区間が開通しました。開通により、南三陸町の基幹産業である水産業の復興支援や、石巻赤十字病院及び平成27年12月に開院した南三陸病院への速達性の向上などが期待されます。



## 15日：東北初の商用水素ステーション・水素エネルギー利活用型集客施設の開所

商用水素ステーションは、燃料電池自動車へ水素を充填するだけでなく、県と連携して水素エネルギーの普及啓発に協力していただきます。また、コンビニエンスストアでは、純水素型燃料電池を設置して、店舗電力の一部を水素エネルギーにより賄うこととしており、停電時でも情報通信機器への電力供給等が可能となります。



## 土木部のトピックス

## 17日：南三陸町災害公営住宅が全戸完成

南三陸町内で整備を進めていた災害公営住宅が全戸（738戸）完成しました。



## 18日：名取中央スマートIC開通

当スマートICの近隣には、仙台空港臨空都市「なとりりんくうタウン」や大型ショッピングセンターなどがあり、開通により震災からの経済復興や物流拠点の効率化、更なる高速道路利用者の向上が期待されています。



## 25日：（都）大手町下増田線の供用開始

県と名取市により平成19年度から整備を進めてきた、都市計画道路大手町下増田線が完成し開通式を開催しました。



## 29日：（一）大島浪板線 大島架橋上部工を架設



大島架橋事業は、一般県道大島浪板線（国道45号から大島まで）の8.0kmが事業区間であり、29日に中央径間の一括架設を行ったことで、離島大島と市内が気仙沼大島大橋で結ばれました。この架設により、震災からの復旧・復興の大きな弾みとなるとともに、気仙沼地域の産業・経済の発展や観光振興に大きく寄与するものと期待されています。

## 30日：山元町災害公営住宅が全戸完成

山元町内で整備を進めていた災害公営住宅が全戸（490戸）完成しました。



